

高い専門性と高度な技術力を集中投下 世界市場を狙える医療機器開発へ弾み

株式会社アクトラス

得意とするセンサ技術と組込みソフトウェアの技術分野において経験を蓄積し、世界中の医療現場で利用できる医療機器を開発。

業界の動向を見据え、技術を生かし、事業を拡張

株式会社アクトラスは、電子制御機器、計測機器、画像処理装置などの設計や組込みソフトウェア開発などを手がける企業である。情報機器メーカーでシステムエンジニアとして働いてきた真田慎代表取締役社長が、平成8年に郷里である横手市に立上げた。

起業当初は、業界全体のトレンドを探る目的も兼ねてソフトウェアや電子部品の販売を手がけ、次に部品納入だけではなく基板開発を受注するなど、段階的に事業を拡張してきた。

真田社長が特に得意としているのは、画像処理技術だ。前職時代から大手メーカーのホームビデオカメラ用検査装置の製作実績もあって、早くも会社設立後4ヶ月目には同メーカーより装置製作の受注に至っている。大手との取引口座を持つという大きな社会的信用を得て、他の企業からも半導体製品の外観検査装置製作などを受注できるようになった。

看護医療の効率化に貢献

アクトラスでは、平成26年6月1日に同社が培ってきた光学センサー技術を投入した点滴センサ「IDC-1301」の販売を開始した。

医療機関で患者に点滴を行う場合、これまでは看護師が時間を図りながら点滴量の調整をすることが多く、熟練度による個人差があった。また、従来型の点滴センサは点滴筒の傾きに対しては正確な測定が困難であった。

今回開発した点滴センサはこれらの問題を解決し、看護師の負担を軽減して効率的な看護医療の実現に貢

事業の解説 地域資源を活用した県内企業の新商品・新役務の開発、販路拡大等の経営革新の取組を支援します。

【事業の活用・お問い合わせについて】

あきた企業活性化センター／経営革新・設備資金担当まで。



点滴センサ「IDC-1301」は医療機器商社を通して平成26年6月1日より全国向けに販売を開始した。今後は国際市場も目指す。

献できるものだ。開発はアクトラス、秋田大学医学部、秋田県産業技術センターの産学官連携で行われ、基礎となる技術は産業技術センターが開発、それをアクトラスが製品化した。

助成金を活用し開発コストに充当

製品開発にあたり、同社は「あきた企業応援ファンド事業」を活用した。採択テーマは「点滴看視装置の開発および販路拡大」。新たな製品開発には多大な時間とコストを要するため、事業費はその開発コストに充当した。また、医療機関からのヒアリングや、販路を拡大するための市場調査に要した費用にも利用し、「IDC-1301」デビューの足固めをすることができた。

真田社長は、「医療現場の手助けとなれるよう、医療機器の開発を続けていきたい」としている。秋田発の医療機器が世界中で活躍する日も遠くはないだろう。

株式会社アクトラス

〒013-0033
秋田県横手市旭川2丁目2-32
Tel. 0182-33-2301
Fax. 0182-33-0339
<http://www.actlas.co.jp/>
E-mail info@actlas.co.jp



自社の高度な技術力を生かして今後は医療分野の機器の開発も事業の柱の一つにしていきたいと語る真田慎社長。



製品の製造は協力工場に委託、自社内では研究、設計、開発、試作品製造までを行っている。



点滴センサの従来品は動作が不安定で実用的ではなかった。アクトラスの製品は高い実用性を目標に開発された。